

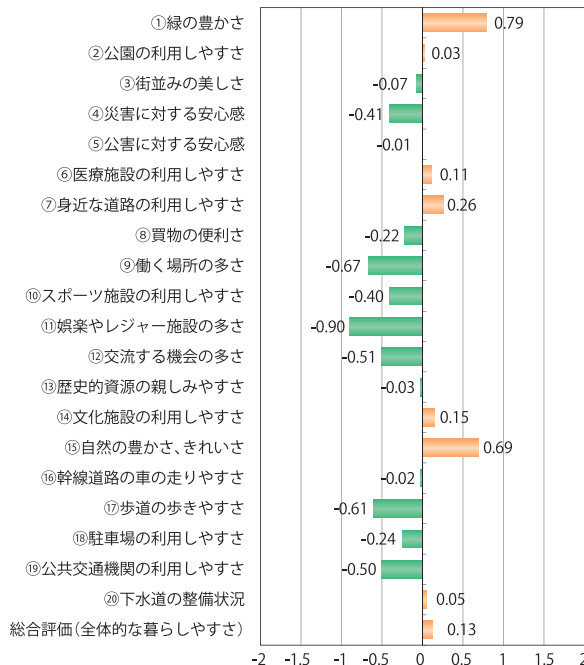
3 市民意向

(1) 市民アンケート

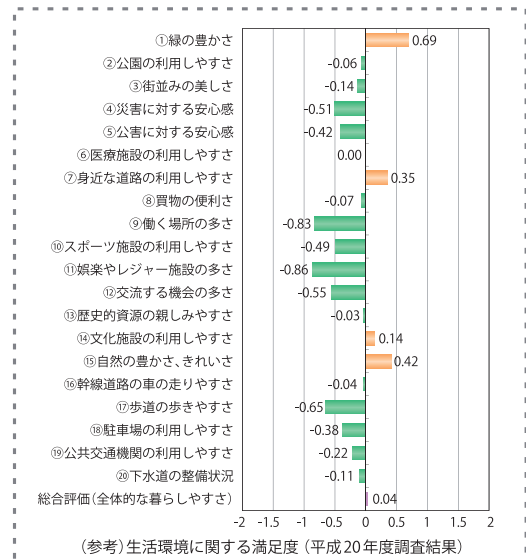
① 生活満足度

- ◆ 「①緑の豊かさ」や「⑦身近な道路の利用しやすさ」等の住みやすさ、「⑮自然の豊かさ」「⑭文化施設の利便」等の自然・文化環境の良さに対して満足度が高く、これは前回調査と同様の傾向を示しています。
- ◆ 一方で、「⑨働く場所」「⑪娯楽」「⑫交流機会」等のにぎわいや、「⑰歩道の歩きやすさ」「⑲公共交通の利便」等の自家用車利用以外での交通環境については、不満度が高い結果となっており、これも前回と同様の傾向です。
- ◆ 前回調査と比べると、「②身近に遊べる公園」「⑥医療施設の利用」「⑳下水道の整備」が不満から満足へと改善される一方、「⑧買物の利便」「⑲公共交通の利用」は不満度が上昇しています。
- ◆ 項目別に見ると不満が多い結果となっていますが、前回調査よりも評価が改善している項目が多くあります。
- ◆ また、総合評価(全体的な暮らしやすさ)においては満足度が高く、前回よりも0.09点上昇しています。

■ 生活環境に関する満足度



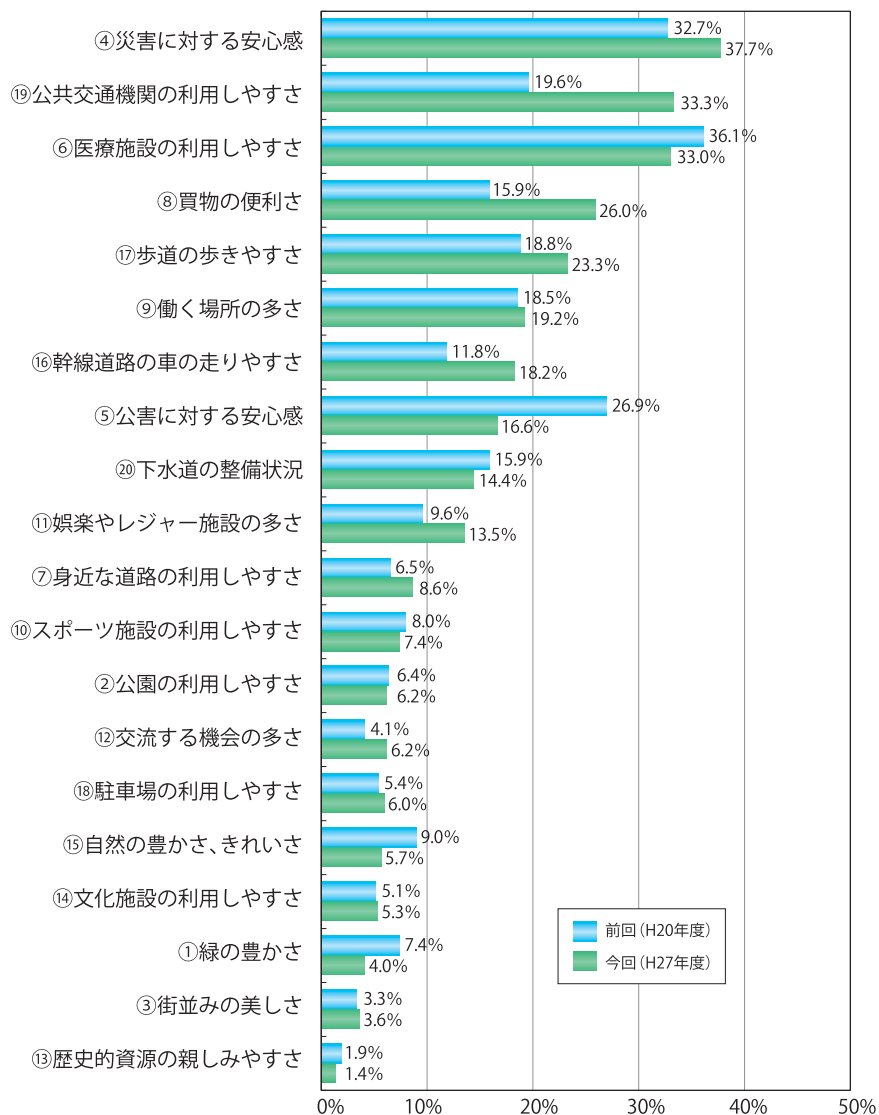
※ 満足度は、回答を点数化(満足=+2、やや満足=+1、やや不満=-1、不満=-2、わからない=0)し、各項目の回答者数による加重平均値を算定したもの。



②今後のまちづくりに特に大事なこと(3つまで回答)

- ◆ 今後のまちづくりで大事なものとしては、「④災害に対する安心感」が最も高く、これは前回調査と同様の傾向となっています。
- ◆ 次いで「⑯公共交通機関の利便」が高く、前回よりも10ポイント以上も上がっており、同様の傾向にあるものとして「買物の利便」や「歩道の歩きやすさ」等、日常生活の利便に対する取り組みへの意向が高くなっています。
- ◆ 「⑥医療施設の利便」への意向が3番目に高く、前回調査とほぼ同様の傾向にあります。
- ◆ 上位を占めるものは、満足度において不満度が高かったものがほとんどであり、身近な生活環境の改善に向けた取り組みが求められています。

■ 今後のまちづくりにおいて特に大事なこと

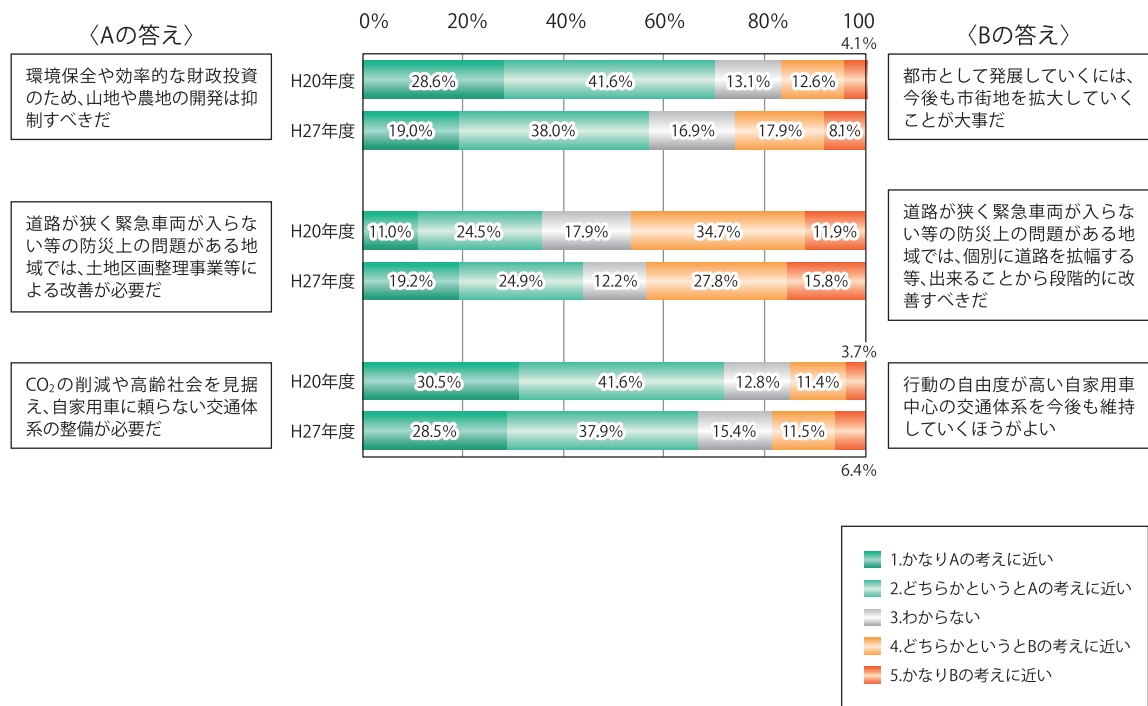


前回の回答者数 (n) = 1,753
今回の回答者数 (n) = 1,310

③岩国市の都市づくりのあり方

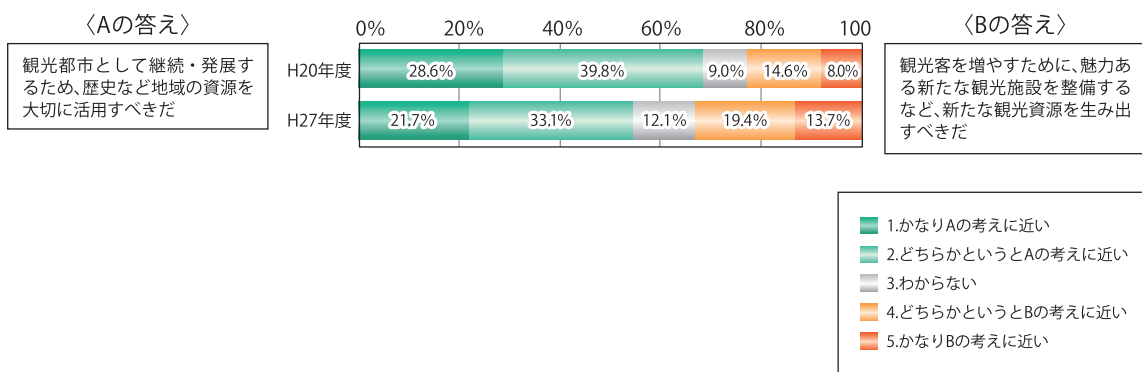
【市街地開発と交通体系の整備について】

- ◆ 市街地開発に関する意識では、「山地や農地の開発を抑制すべき」が半数以上を占めているものの、前回調査に比べ、10ポイント以上減少しており、市街地拡大への意向がやや上昇しています。
- ◆ 道路が狭い等の防災上の問題がある地域に対する環境改善の方法として、「土地区画整理事業等」の面整備手法と個別路線での改善とが半々であり、前回調査に比べ、面整備手法への意向が10ポイント弱上昇しています。
- ◆ 交通体系に関する意識では、「自家用車に頼らない交通体系の整備が必要」が7割弱で、前回調査に比べ6ポイント減少するものの、多数を占めています。
- ◆ 市街地開発と交通体系の整備としては、前回調査よりも市街地拡大に向けた開発志向が少し上がりつつある一方で、自家用車依存からの脱却への意向があることから、「市街地のあり方と交通ネットワーク」に関する都市づくりの方向性を示していく必要があります。



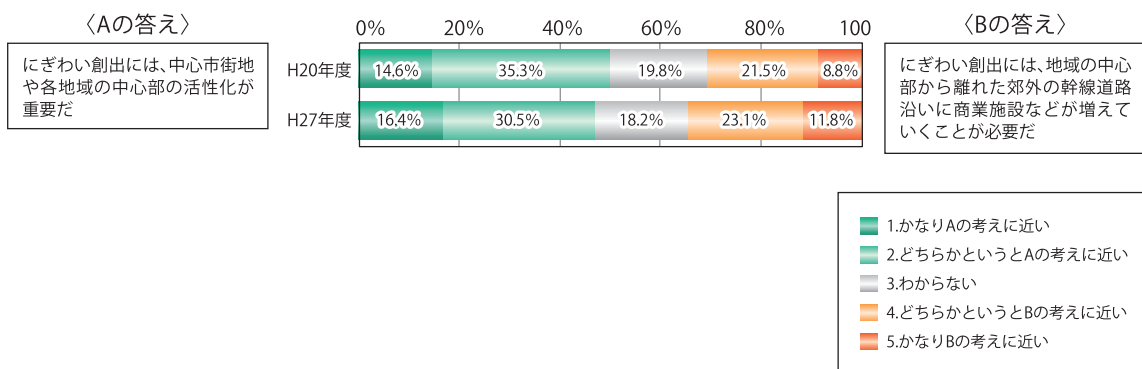
【岩国らしい景観の保全・形成について】

- ◆ 観光都市と地域資源からみた景観の保全・形成に関する意識では、「歴史など地域の資源を大切に活用」が半数以上を占めるものの、一方で「魅力ある新たな観光施設の整備等」への意向が前回調査よりも10ポイント以上上昇しています。
- ◆ 岩国らしい景観の保全・形成と観光都市づくりでは、今ある資源を大切にしつつも、新たな観光資源を創出することによる活力づくりへの意識の高まりがみられ、景観形成には、保全のみではなく新たな魅力ある景観を創出するという方向性も求められています。



【商業振興やにぎわいの創出について】

- ◆ にぎわい創出に関する意識では、「中心市街地や各地域の中心部の活性化」の意識の方がやや高いものの、「郊外の幹線道路沿いの商業施設の増加」への意識も高く、前回調査よりも5ポイント近く上昇しています。
- ◆ 人口減少が続く中、今後の都市づくりにおいては、商業施設の郊外進出が中心部の活性化に影響を与えないよう、また、郊外部の無秩序な開発に繋がらないよう、商業振興とにぎわいの創出に向けた方針を示していく必要があります。



(2)都市づくり市民懇談会

都市づくり市民懇談会(当初策定時)における主な意見として、以下のものが示されました。

- ◆ 幹線道路網の整備とネットワークづくり
- ◆ 歴史的資源や自然の保全と活用
- ◆ 商業の活性化による利便性の向上や人の流出抑止
- ◆ 公共交通や自転車が利用しやすい環境づくり
- ◆ 災害に強いまちづくり
- ◆ 錦川流域の連携

(3)地域づくり市民懇談会

地域づくり市民懇談会(当初策定時)における主な意見として、以下のものが示されました。

①岩国ブロック

- ◆ 人が集まりにぎわう中心市街地づくり
- ◆ 駅や空港を活かしたまちづくり
- ◆ 錦帯橋や城下町を活かしたまちづくり
- ◆ ハス田や干潟の保全
- ◆ 南岩国駅周辺の商業集積と住環境づくり

②由宇・通津ブロック

- ◆ 瀬戸内海の魅力を活かしたまちづくり
- ◆ 昔の里山や清流をよみがえらせるまちづくり
- ◆ 交流や流通を支える道路整備
- ◆ 3世代が安全・安心に暮らせるまちづくり

③玖珂・周東ブロック

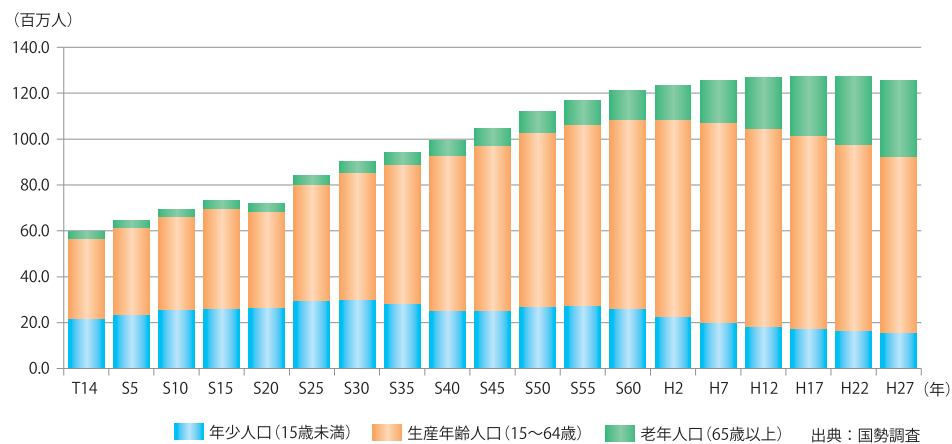
- ◆ 自然に囲まれてゆったりと暮らせる田園都市づくり
- ◆ 歴史や文化の活用
- ◆ 地産地消、自給自足のまちづくり
- ◆ 3世代に優しく、子供が健やかに育つ環境づくり

4 社会・経済の潮流

①人口減少・超高齢社会の到来

- ◆ 増加の一途をたどってきた日本の総人口は、平成27年国勢調査において減少に転じ、少子化も続いていることから、今後も全国的に人口減少が続くことが見込まれています。
- ◆ 減り続ける年少人口・生産年齢人口に対し、老年人口は一貫して増加しており、人口減少・超高齢社会を見据えた都市整備のあり方が求められます。

■ 全国の年齢階層別人口の推移



②環境負荷の軽減に向けた意識の高まり

- ◆ 地球規模の環境変化によって、局所的な豪雨等の異常気象が発生しており、国民の環境問題に対する関心も高まっていることから、緑地等の自然環境の保全と併せ、地球温暖化防止に向けた積極的な取り組みが求められます。
- ◆ 地球環境問題への取り組みの中で、二酸化炭素(CO₂)排出量の削減は大きな課題であることから、自動車からのCO₂排出量を削減するため、現在の自動車依存の高い交通環境を見直し、低炭素型社会への転換に向けた都市づくりが必要とされます。

③自然災害に対する都市計画の役割

- ◆ 平成23年3月11日に発生した東日本大震災や今後起こりうる南海トラフ地震等の大規模地震、全国各地で起きている豪雨等による自然災害を踏まえて、これまで以上に都市防災における都市計画の果たす役割が求められています。

④経済のグローバル化*と都市間競争

- ◆ 産業構造の転換、情報化社会の進展等を背景とした経済のグローバル化により、企業の立地や優秀な人材の活躍の場等が、国内外を問わず選択される都市間競争の時代となっており、それぞれの都市が有する特性や資源、魅力を活かした都市づくりが必要です。

⑤財政縮小と地方分権社会への対応

- ◆ 人口減少や高齢化の進行は、労働力の減少による都市の生産活動を低下させ、新しい投資余力の低下に大きな影響を与える一方、既存の社会資本の維持コストは確実に増加し、財政的制約はますます厳しくなるものと考えられます。
- ◆ 地方分権社会を迎え、市町村が主体的に政策を決定することが可能となりつつありますが、自己責任による自律的な都市経営を行うことが求められます。

5 都市政策上の視点

①市街地の再編及び中心市街地の機能回復による集約型都市構造*の構築

- ◆ 人口減少・超高齢社会への対応や環境負荷を軽減する効率的な市街地への再編・整備
- ◆ 都市の中核を担う中心市街地の都市機能の集約によるにぎわいの回復

②安全・安心な都市の形成

- ◆ 防災対策や防災まちづくりへの積極的な取り組み
- ◆ 超高齢社会を見据えたユニバーサルデザイン*の推進

③拠点間の連携強化と拠点の魅力の向上

- ◆ 効率的な都市構造を構築するための拠点間を結ぶ交通ネットワークの強化
- ◆ 地域特性に応じた拠点の魅力づくりと機能集積

④地域資源を活かした魅力あるまちの創出

- ◆ 歴史や文化等の地域資源を活かした特色ある都市づくりの推進
- ◆ 良好なまちなみ景観の保全や形成による魅力あるまちの創出
- ◆ 豊かな自然と生業がつくりだす美しい自然・田園景観の保全

⑤地域住民のまちづくり参加と公民協働の取り組みの推進

- ◆ 地域の魅力づくりや効率的な市街地の再編・整備を進めるためのまちづくりへの市民参画
- ◆ 防災・防犯等に対応したまちづくりや都市施設等の管理運営等への市民参加



6 岩国市の特性と都市づくりの課題

(1) 一体の都市づくりに向けた課題

都市の特性と問題点

- ▶ 広大な市域を有する本市においては、市街地部と農山村部とが連携し、**それぞれの特性を活かす仕組みづくりが求められています。**
- ▶ 地理的特性、土地利用制度上の違いから、2つの都市計画区域が存在しており、**両区域における施策・事業の連携・調整による都市機能の向上を図る必要があります。**



都市づくりの課題

1 市全域の将来像の実現に向けた一体の都市づくり

岩国市として一つの将来像を掲げ、同じ目標に向かって一体の都市づくりを進めていく必要があります。

都市の特性と問題点

- ▶ 岩国地区や岩国市街地中心部、また、由宇・玖珂・周東の旧街道沿い等において、都市の成り立ちとともに、**一定の都市機能を有する市街地が形成されています。**
- ▶ 自家用車を中心とした生活様式等を背景に商業施設等の都市機能の分散化が見られ、**既成市街地での生活利便の低下、拠点性の低下が危惧されています。**



都市づくりの課題

2 都市拠点及び地域拠点の形成・充実

岩国市街地中心部の都市拠点及び各地域の地域拠点の形成と充実を図るとともに、各拠点の機能分担を図ることが必要です。

都市の特性と問題点

- ▶ 地形上の制約等により、**各地域の拠点間を結ぶ道路・交通ネットワークが限られています。**
- ▶ 歴史的・文化的なつながり等を背景とする**本市の特性を都市づくりに活かし、都市の活力につなげる必要があります。**



都市づくりの課題

3 拠点間ネットワーク形成と地域循環型都市づくり

効率的な都市構造を構築するため、拠点間ネットワークの形成を進めるとともに、農山村部と市街地部が密接に連携した地域循環型都市*づくりを進める必要があります。

(2) まとまりある市街地形成と適正な基盤整備に向けた課題

都市の特性と問題点

- ▶ 本市においても、少子高齢化が急速に進んでいるため、生産年齢人口が減少することによる地域の活力低下が懸念されます。
- ▶ 今後、都市施設・公共施設等の維持管理や改修等が必要となることを踏まえ、効率的な行財政運営と投資による、持続可能な社会資本の整備が求められます。

都市づくりの課題

4 集約型都市構造への転換

人口減少・超高齢社会に対応するため、既成市街地内への都市機能の集約による効率的な市街地形成と市街地内における土地利用の再編を進める必要があります。

都市の特性と問題点

- ▶ 都市計画決定後、長期未着手となっている都市計画道路や都市計画公園、土地区画整理事業等があります。
- ▶ 市民生活に最も身近な都市施設である道路や公園、下水道等の整備が遅れている地区が見られ、安心・安全かつ快適な市街地環境の整備が求められます。

都市づくりの課題

5 適正かつ効率的な都市基盤整備

市民生活に身近な道路や公園、下水道等都市施設の着実な事業推進を図るとともに、長期未着手の都市計画施設や土地区画整理事業について、今後の整備のあり方の検討を行う必要があります。

(3) 地域資源や立地特性を活かした都市づくりの課題

都市の特性と問題点

- ▶ 錦川や寂地峡等の豊かな自然、錦帯橋等の貴重な歴史遺産、祖生の柱松等の伝統文化等、自然や歴史・文化資源が数多く分布しています。
- ▶ 岩国錦帯橋空港の開港により、広域的な交流機会がこれまで以上に増加していることから、市民のみならず来訪者にとっても魅力ある都市と感じられるよう、本市の資源が有する魅力を広く紹介するとともに、有効に活用する取り組みが求められています。

都市づくりの課題

6 豊かな自然環境と地域資源を活用した魅力の向上

豊かな自然環境と数多くの地域資源を有する本市においては、地域の特性を活かしたまちづくりを進め、都市の個性と魅力を高める必要があります。

都市の特性と問題点

- ▶ 山陽新幹線新岩国駅や山陽自動車道岩国インターチェンジ、玖珂インターチェンジ、岩国錦帯橋空港等の**広域交通結節点***が市街地近郊に存在します。
- ▶ 周辺都市を結ぶ国道2号や国道188号等の**主要道路における慢性的な交通渋滞は、市民の生活や産業活動の妨げ**になっています。
- ▶ 山口県の最も東に位置する本市は、市民の日常生活や産業、文化において、**広島都市圏や島根県と密接なつながりを持っています。**

都市づくりの課題

7 交通特性や立地特性を活かした都市づくり

本市の恵まれた交通特性及び立地特性を産業活動や文化交流に活かし、都市の活性化や新たなまちの魅力づくりにつなげる必要があります。

(4)市民が安心して暮らすための都市づくりの課題

都市の特性と問題点

- ▶ 地震や豪雨等による自然災害に対して、土砂崩れや浸水被害などの**被害が発生したことがある地区及び発生が想定される地区**が市内に多く見られます。
- ▶ 道路が狭いのに対し、家々が隣接するなど、**火災に対して延焼の危険性のある地区や、円滑な消防活動が困難な地区**も見られます。
- ▶ 災害時や緊急時における市民の円滑な避難及び早急な救援活動を可能にするための**避難場所や避難路の整備、並びに公民協働による防災体制の構築が求められています。**

都市づくりの課題

8 災害に強い安心して暮らせる都市づくり

山間地の保水性の維持や市街地の防災機能の向上と公民協働による救援体制の構築等、市民が安心して生活できる居住環境を整える必要があります。